

日産厚生会玉川病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究課題名（研究番号） 原発性自然気胸手術における胸壁滑車法による単孔式胸腔鏡下手術-Dual Coveringの実際と有用性（No. ）

当院の実施責任者（所属） 坪島顕司（気胸研究センター）

他の研究機関および

各施設の研究責任者（所属） なし

本研究の目的

近年、胸部外科領域では肺癌等の様々な疾患に対して、より体への負担の少ない手術を目指し1つの小さな傷で行う単孔式胸腔鏡下手術を実施するケースが増えています。原発性自然気胸（もともと肺を持っていない若い男性に多い気胸）における標準的な手術方法は3つの小さな傷で行う胸腔鏡下手術（3ポート法）ですが、他の胸部疾患と同じく単孔式胸腔鏡下手術を行う施設が増えています。当院でも比較的簡易な症例に対しては以前から実施しており、担当医が2012年に考案した胸壁滑車法（鉗子を用いる代わりに、肺に縫い付けた糸で操り人形のように病変を動かす方法）を用いています。一方で特に若い方の原発性自然気胸は病気の原因である肺嚢胞（ブラ）を切除しただけでは再発が多く、当科では違う種類の吸収性シート（ネオベール、サージセル）を2重に貼付する方法（Dual Covering）で再発が減少することを報告し実施してきました（当院倫理承認番号 玉2019-24）。2020年からは低侵襲性と再発予防効果の両立を期待して単孔式胸腔鏡下手術でもDual Coveringを行っています。Dual Coveringは単孔式胸腔鏡下手術の場合、片手で操作する場面が多くある程度の習熟を要するものの、後期研修医でも施行可能な方法です。

今回、3ポート法と比較して、この方法の有効性（再発率など）および安全に行うための注意点について過去の診療記録をもとに調査いたします。

本研究を学会、論文発表することで、原発性自然気胸の手術における負担軽減と治療成績向上に役立つことが期待できます。

調査期間 倫理委員会承認後から2023年3月31日まで

研究の方法（使用する試料等）

●対象となる患者さま
当院で2019年1月から2021年9月までに原発性自然気胸に対して初めての手術を受けた方。Dual Coveringを受けた方。

●利用する情報
カルテに記載のある診療記録、検査データ等を利用します

試料/情報の他の研究機関への提供および提供方法

なし

個人情報の取り扱い

利用する情報から氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は削除し解析を行います。また、研究成果は学会や論文等で発表を予定していますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。本研究のために収集したデータは、研究終了後5年間保管し、その後はすみやかに消去します。

本研究の資金源
(利益相反)

本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません

お問い合わせ先

電話：03-3700-1151 (代表)

担当者：坪島顕司

備考